

【視察調査報告書】

委員会名	文教経済委員会
委員名	【委員】 9名 若尾喜美絵委員長、小林秀司副委員長、星野直美委員、梶原幸子委員、鈴木基司委員、安藤修三委員、石井宏和委員、日下部広志委員、荻田米蔵委員
日程	令和4年（2022年）5月10日（火）～5月12日（木）
詳細	
視察日及び視察先	5月10日（火）熊本県 熊本市
視察内容	GIGAスクール構想に伴うICTの活用について
概要	熊本市はGIGAスクール構想の先進市であり、オンライン授業の他、児童生徒が能動的に端末を活用する授業づくり、教員の負担軽減、不登校対策など、幅広い面でICTの活用が進められている。そこで、ICTの活用を効果的に推進するための仕組みや、先進的な活用方法について本市の参考とするため視察を実施した。
委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)	<p>●若尾喜美絵委員長</p> <p>熊本市では全国に先駆けICT活用を進めており、熊本地震での休校中の学びやコロナ禍での学びの保障、また不登校の子ども達の学びにもICTの活用が有効だったとお話を聞き、学校教育におけるICT活用の可能性を改めて感じた。また、個別最適化の学びと協働的学びの両方の視点から、ICTの活用を進め授業改善に取り組んでいるとお話があり、具体的な事例紹介を通して、子どもの情報活用能力を高めるための試みが様々行われている様子が伺え、大変参考になった。現段階ではICT活用による教育成果を図る指標がないとのことだったが、個別最適化の学びに向けて取り組んでいる本市でも、評価指標のあり方は今後の課題だと感じた。熊本市の子ども達がICTを活用した授業で、楽しく学んでいる様子を見せて頂き、こうした子ども達のわくわく感や学ぶ楽しさを感じる授業や学校づくりこそが、不登校の未然防止としても大変重要であると感じた。ぜひ、八王子市の学校でも大切にしたい視点だと思う。</p>
委員所感 (意見・課題・本市への反映など)	<p>●小林秀司副委員長</p> <p>熊本市では震災からの復興元年として様々な目標値を設定する中で、教育の分野においてICTの活用を掲げ、先進事例をもつ自治体となった。掲げる教育理念に基づき、また震災時の経験を活かしLTEの回線利用をいち早く導入するなど、本市とは異なる整備も実施していた。一方で端末整備ではリース方式を採用。運用ではモデルチェンジなどで予見しきれていない事例もあるとのこと、全品購入配備した本市とは異なるが、貴重な情報となった。</p> <p>電子情報活用能力についてはやはりゼロリスクというわけではなく、利用する児童等へのリテラシーについては進行形であると感じました。</p> <p>GIGAスクール構想によるICTの活用は新しく始まったもので、様々な事例をつみ重ねることで真の活用へと繋がると改めて認識しました。</p>

●星野直美委員

熊本市教育振興基本計画では、「自ら考え主体的に行動できる人を育む」という理念のもと学校改革が進められており「子どもたちが学びとる」という授業に ICT の活用が効果的に実現され、受験勉強対策にも端末を使う先生方の意識や取組みも進んでいると感じた。

熊本地震を機に自由に使える端末を整備していた背景もあるが、八王子市の ICT 教育でも、子どもたち自らが学び、非常事態でも学びを止めない環境のために研究を続けていきたいと思う。

●梶原幸子委員

教員の力量に差がある中で、好事例を積極的に紹介し各学校の取組みを進め、学校間格差を埋める取組みは、児童生徒にとって大変有効であると感じた。

ICT を使ったことによる学力効果についてはまだ未知数ということであるが、今後、八王子市でも有効性をしっかりと分析し、児童生徒の生きる力をどう育んでいくのか考える必要があると考える。

●鈴木基司委員

新時代の学びに向けた一人一台のタブレット活用に、全市一丸となって取り組んでおり、素晴らしい基本理念のもと先進的な取組みを教えて頂きました。

授業全体を先生が教えるから、子どもたちが学び取るという、「自ら考え主体的に行動できる力」を生徒が実践するアウトプット中心の大改革に取り組む、将来目指す子どもの姿、目指す授業を体現していると感じました。

●安藤修三委員

ICT を活用した授業を展開する中で、情報活用能力を伸ばすことに力点を置いていることに感銘を受けた。情報化社会の中で、ICT 機器を活用して情報を収集し、それを課題解決のために活用していく力は、社会に最も求められる力の 1 つだと思う。その取り組み方法等を説明していただき、非常に参考になった。

今後、その能力を伸ばしたことについての評価方法などが課題となってくるとの説明もあったが、まさにその通りで、社会的に必要とされる能力でも、その効果測定方法は確立されていないと思うので、八王子市としても民間の知見を活用するなど、熊本市の例を参考に研究していくべきものと感じた。

●石井宏和委員

タブレット端末や周辺機器の選定、小学校と中学校の違い、情報化推進チームの結成など、詳細な資料に基づいた丁寧な御説明で理解が深まった。破損することもあるが端末は原則持ち帰りにして、できるだけ制限せずに児童・生徒に活用させ、慣れてもらうことが大事だと考えているとのことで、チャットなどでの児童・生徒間のトラブルも「山ほどある」が、数か月で落ち着くことが多いとのことだったが、この点は心配に思った。学習効果の検証もなかなか難しいとのことだった。

●日下部広志委員

「いつでも どこでも つながる 使える」を目指し、LTE 方式のタブレットを導入し子どもたちが「教えてもらう授業」から、「学びとる授業」を目指して進めておられるという話が非常に印象的でした。先生方も手探りの状態から試行錯誤して授業内容を工夫され、その取り組みを自治体として支援し、全体の力を底上げしていく、その体制作りの重要性も改めて実感しました。

●荻田米蔵委員

6年前の大地震により甚大な被害を受けた熊本市は、復興に向けた取り組みとして「100年後の未来への礎作り」を掲げた。教育分野では、市の財源でタブレット端末を2018年から4年間かけて教職員に1人1台、児童生徒には段階的に1人1台整備したことに信念と熱意を感じた。iPadなどを使い「先生が教える」授業から「子どもたちが学びとる」授業を目指していて八王子市でも参考にさせていただこうと思った。

視察の様子



視察日及び視察先	5月11日（水）福岡県 福岡市
視察内容	MICE事業の推進について
概要	<p>福岡市はMICE事業の先進自治体であり、観光庁からグローバルMICE推進都市として選定されており、様々な国際会議やイベント等の誘致実績がある。また、MICEの誘致戦略としてアンバサダー制度の導入や、地域資源を活用したユニークベニユーの開発などを実施しており、そのようなMICE事業の推進体制を本市の参考とするため視察を実施した。</p>
<p>委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>●若尾喜美絵委員長</p> <p>日本の西の玄関である福岡市のMICE事業について、海の借景が素晴らしいコンベンションセンターの施設を見せて頂きながらのお話、また、説明を聞きながらまち歩きを通してMICE事業とはどのようなものなのか、また、ユニークベニユーを作るの意味、また、魅力ある観光スポットや歴史の紹介など観光資源をわかりやすく発信することの重要性を肌で感じた。また、国際的な会議の誘致に向け、コーディネートの役割が重要なこともよくわかった。福岡市は歴史や観光資源が圧倒的に豊富であり、コンベンションセンターでは万人規模の会議開催が可能であるなど、MICE事業の実施に向けては地域資源の厚みの点ではかなり格差を感じるが、令和4年度9月には東京都多摩産業交流センターの開設が予定される八王子市でもMICE事業を推進することで、新しい時代を見据えた新たな産業振興や魅力ある観光産業につながっていくと思われ、取組をぜひ推進していきたい。</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>●小林秀司副委員長</p> <p>MICE事業実施にむけ、たま未来メッセが10月運用開始となる、福岡市では既に多くの実施実績をもち、今日では建物の専門に「コンベンション協会」が維持管理整備検討し、事業の誘致や会議手法をユーザーへ提案を「コンベンションビューロー」が実施している。これまで実績をもとに学術会議等、規模、用途の対応できるよう、当然コロナ禍での対応も実施。さらには実施の会場の選択という都市間競争下の中で誘致活動を行っています。</p> <p>残念ながら実績、周辺環境等を直接的に比較しにくい部分もありますが、一方でターゲットなる規模を絞り込み、「強み」となる部分を改めて抽出し本市のMICE事業の推進につなげたいと思いました。</p> <p>●星野直美委員</p> <p>もともと福岡市は観光地として、ホテルや観光客を受け入れる施設が整っており、MICEの立地場所も埋立地が利用され、大規模なイベントが同時にできる一つのまちのような位置づけになっている。八王子市のMICEと規模や、できることが桁違い！というのが一番の印象であった。観光地でもない、ホテルもない、都心にも温泉地にも近いこの土地でどんな営業戦略を考えるのか。日本遺産は文化財だけではなく、都市戦略とし活用していくことが求められていると改めて感じた。</p>

●梶原幸子委員

政令指定都市福岡市の MICE 事業と比較すると、かなり規模が違いすぎるというのが率直な感想である。ただ、稼げる MICE 事業を念頭にこれまで民間事業者が担ってきた部分も MICE 事業で担うことができないか、と思考するなど MICE 事業活性化のために挑戦する姿勢に驚きを覚えると共に、その積極的な姿勢には見習う部分も大いにあった。

●鈴木基司委員

九州のゲートウェイ都市である福岡市の取り組みは多岐にわたり、そして規模も大変大きく見学させて頂いた施設などは、国際会議の会場であったり、世界的なスポーツイベント会場であったりと、素晴らしい設備が整っており、その推進体制が際立っていました。中でも MICE 誘致のワンストップ窓口など取り入れていかなければならない政策だと感じました。

●安藤修三委員

福岡市中央ふ頭地区のコンベンションゾーンに設立されている、福岡国際会議場やマリンメッセ福岡 A, B 館などの一連の施設を視察した。施設の管理運営は福岡市等が出資する一般財団法人福岡コンベンションセンターがになっている。MICE 誘致に関しては MPF（公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー）が中心となって進めている。特徴的なのは、日本国内のみならず、アジア諸国にターゲットを広げ、MICE 誘致に取り組んでいることで、西の玄関口福岡の立地的な強みを活かしての施策だと感じた。施設稼働率等は概ね 65% 以上を目指しているとのことだったが、その他誘致客数や経済効果などの目標値と、目標値の算出方法などについても今後研究していきたい。

●石井宏和委員

案内していただいた福岡国際会議場もマリンメッセ福岡も眺めも設備もすばらしく、これらの指定管理者である一般財団法人福岡コンベンションセンターは企画や営業など強化し人員を増やしたとのこと。MICE 推進は、公益財団法人福岡観光コンベンションビューローが視察受け入れなどからワンストップサービスを行っていて、学会の利用など実績も豊富。福岡市の観光客は過半数が韓国で、中国、台湾、香港などで残りの 4 割ほど、歴史的にも交易の中心だった土地の魅力を感じた。

●日下部広志委員

「アジアのリーダー都市へ！」との目指す都市像をもとに、様々な施策に取り組まれている視点の大きさに多くの触発をうけました。特に今回視察させて頂いた MICE の取り組みに関して、具体的な計画立案方法、他市と比べての強味、利用者目線での施設の整備など、担当者の方から直接お話をお聞きすることができ、非常に充実した内容となりました。本市に於ける MICE 事業に関しても参考とし、政策提言に繋げていきたいと思えます。

●萩田米蔵委員

福岡市は九州のゲートウェイ都市を目指し、MICE の誘致と受け入れに力を入れている。具体的には、(1) 福岡国際会議場など「場」の提供(2) MICE 推進計画を策定・管理する福岡市(3) 官民連携による MICE 推進の専門部隊が一体となって進めている。今年 10 月の「たま未来メッセ」開業を控え、有意義な視察となった。

視察の様子



視察日及び視察先	5月12日(木) 福岡県スクールソーシャルワーカー協会
視察内容	スクールソーシャルワーカーの活用促進について
概要	<p>福岡県スクールソーシャルワーカー協会は、全国でもSSWの活用の先進市である福岡市の他、県内のSSWが所属する団体であり、SSWの専門性向上や人材育成のための研修、ソーシャルワークに関する研究、広報啓発事業などを実施している。そこで、本市で課題となっている人材育成や、今後のSSWの体制について参考とするため視察を実施した。</p>
<p>委員長所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>●若尾喜美絵委員長</p> <p>今回お話をしてくださった福岡市SSWの協会のメンバーは全員が大学の先生であり、学術的にも最先端にいる方が実際にスクールソーシャルワーカー(SSW)として学校で業務を行い、スーパーバイザーとしてSSWの研修を行う体制が取られており、不登校の子どもの増加など課題を抱える子ども達が増える中、いかにSSWの機能を強化し、子どもを支援していくかを真剣に考え、熱心に活動が行われていることに大変強い感銘を受けた。協会では5つの専門委員会が設置され、福岡県内のSSWが参加するグループミーティング委員会では日常的に情報交換や相談についての協議が行われている。また、学校現場へのアンケートを実施し、学校現場の声を踏まえながらSSWの対応能力の向上に向けた取組を行っており、実践と研究の両輪で進められている点が素晴らしい。</p> <p>事例研究は海外のSSWの機関とも連携し進められており、海外の学校教育事情を知ることで、日本の教育を俯瞰した新たな提案にもつながっていくことになる。不登校など子ども達の状況が深刻化する前に予兆を捉え、未然防止の取組をしていくことが重要である。子ども達が学校が楽しいと思えるよう、学校における居場所づくりもSSWの役割として取り組んでいくことが大切とお話は、非常に新鮮で共感できた。SSWにはコミュニケーション能力や専門性に加え、現場の経験など高いスキルが求められており、SSWに適した人材の確保と人材育成に向けスーパーバイザーの設置も重要である。</p> <p>また、SSWの多くが会計年度任用職員として雇用されている現状の中、正規雇用の導入などSSWの士気をあげていくための雇用環境の充実も今後の重要課題であるとお話は、大変核心を突く視点であり、本市のSSWの体制強化に向けても、大いに参考にしていきたい。</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本市への反映など)</p>	<p>●小林秀司副委員長</p> <p>SSW協会によりこれまで実施した積み重ねと、学術的な見解から、「ソーシャルワーカー」の在り方について深く知ることができました。我が国において教育現場の課題解決には「SW」という制度をどのように活用していくのかを適宜に検討しなければならないと感じました。</p> <p>価値観の多様化、個別の子どもの経済状況や生活環境の違いも大きくなっています。このような要因からも教育現場は刻々と変化してます、「公教育」の場で、教員の配慮や考慮すべき点も増加し、仕事量の増加による負担増も顕在化しています。「ソーシャルワーカー」というこの制度を適宜に運用することで、学校運営が改善され子ども達の学習環境維持へと繋がるのではないかと感じました。</p>

●星野直美委員

福岡での不登校児童にあった取組を学者の先生がされていることにとても関心があった。SSWは、子どもや保護者に直接支援し、問題の予防、学校との連携、家庭支援が重要とだと繰り返されていた。また、SSWの質向上や専門性を高める、生活基盤が整う報酬も保障しなければ継続した支援は難しいと感じており、不登校の子どもが右肩上がりの状況にある中どのように問題を予防できるのか。複雑な時代にあった専門家による対応も、子どもたちの明るい未来につながると思った。

●梶原幸子委員

県の事業であるが、今後、本気で複雑化する児童生徒の生活面を支援していくためには、市のSSWの体制をここに近付けていくことを考えていくべきである。SSWをチーム学校の一員と位置付け、労働条件も含めた基盤整備、特性を生かせる環境を整えていくことも必要。SSW活用促進は、学校は踏み込みにくいという風評を断ち切るカギを握る施策であると実感した。

●鈴木基司委員

今の小中学校ではSSWの取り組みは必要不可欠になってしまったと強く感じました。多くの生徒や教師までもが、千差万別の悩みを抱え日々苦悩している様子が伝わってきました。これが現状なんだと強く考えさせられました。全世界的にSSWを頼る学校が増えていることを考えれば、日本でも中学校校区に一人のSSWを配置できるように手を打っていかねば取り返しができない状態になってしまうと確信しました。

●安藤修三委員

独自にSSW協会を設立し、SSWの人材育成、待遇改善、人材配置に取り組んでいるという、先進的な事例を視察することが出来た。また、SSWの配置形態について、中学校区拠点巡回型がより効果的とのことだった。よりアウトリーチなどを通じて家庭や地域に入り込み、学校や関係機関との連携を促し、子どもの支援に繋げられる効果的な手法だと感じた。不登校などについては、未然防止が何より大事とのことだったので、上記の相互連携の中で子どもたちの変化を早期に発見し、早期の支援につなげていくことが大切であるとのことだった。

また、SSWの離職率の高さについても言及があった。専門的な知識とスキルを要する職種でありながら、その処遇等の面から離職が多いとのことだが、経験のあるSSWが多く残り続けてもらうことは子どもたちにとっても必要なことである。この点についても今後処遇面等も含め研究が必要と感じた。

●石井宏和委員

大学教授や准教授であり、SSWとしての現場の経験も豊富な3名のご説明と機微に敬服させられた。福岡市では2018年から全中学校区にSSWが採用され、小学校を拠点として地域の小中学校を巡回して支援している。不登校も小学生から始まることも増え、兄弟や家族への支援も小中学校を通して見ることで行いやすくなるとのことで、これに学びたい。落書きボードなどがあり、くつろいで相談できる居場所づくりも重要。SSWの養成と待遇改善も急務などの訴えにも共感した。

●日下部広志委員

八王子で実施している「派遣型」ではなく、「学校配置型」での先進的な取り組みをされている福岡市の取り組みを視察させて頂きました。中学校と小学校の連携、各家庭へのアウトリーチ、空き教室を利用した居場所づくり、SSWの処遇改善など、具体例をもとに、現場のSSWの方にお話をお聞きし、非常に多くのことを学ばせて頂きました。八王子市に於いても、今回の視察を参考に、SSWの取り組みをさらに推進していけるように、政策提案に繋げてまいります。

●荻田米蔵委員

福岡県SSW協会の会長、事務局長などを務める3人の大学の先生からお話をうかがった。SSW活用事業の実践やSSWの研修や待遇の向上などについて興味深い様々な事例をお聞きした。支援を必要とする児童生徒の人権と教育および発達の保障に寄与したいという協会の理念に共感した。八王子市でもSSWの目的を明確化し強化していただきたいと思った。

視察の様子

